

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井 博文



■ 「FM 山陽小野田」の放送が始まりました

一昨年7月の厚狭川の水害時には、現地対策本部を置き、みなさんに大切な情報をもれなくお届けするべく、街宣車や自治会長を通じて広報活動に努力しましたが、街宣車は声の届く範囲が意外に狭く、また自治会長への個別の電話には多くの時間がかかり、随分歯がゆく思ったことでした。

その後、東日本の大震災があり、四国沖の大地震も遠い将来の話ではなくなってきた昨今、もっと情報伝達の方法はないものかと、焦りにも似た心境でしたが、この度、「FM 山陽小野田」という民間ラジオ局ができました。2月1日開局で、周波数は89.7MHz。局の愛称は「FM サンサンきらら」。山陽小野田市ほぼ全域をカバーしています。「緊急告知 FM ラジオ(防災ラジオ)」を備えていれば、災害発生時にスイッチが切れていても、放送局で起動操作することにより自動的にスイッチが入り、災害の情報、特に山陽小野田市内の情報が刻々とみなさんの家庭に届くという仕組みを取り入れる予定となっています。

2月1日に先立ち、試験放送が流されましたが、音質も良く安心しました。普段は、まちのいろいろな楽しい情報を送り届けてくれるそうです。

みなさん、どうぞFM 山陽小野田に関心を持っていただき、万一の災害時に備えてくださることを切望します。

■ ^{ひと}女と^{ひと}男の一行詩について

去る1月21日夜6時から約2時間。「いたわりが、君とぼくを、つなぐ糸」と題し、KRY 山口放送ラジオの生放送で、本市の「女と男の一行詩」が楽しく詳しく紹介されました。

「女と男の一行詩」は、男女共同参画社会基本法が制定された平成11年、当時の旧小野田市が男女共同参画社会の前進に向けて取り組んだ啓発事業で、以来13年、着実に定着して、毎年全国から約3,000点の作品が届いています。優秀作品を表彰していますが、回を重ねるにつれ、内容に幅と深みが増しているように感じます。ちなみに第13回(平成23年度)の最優秀作品は、「会社で新人 育児も新人 妻もがんばる 俺もがんばる」(川崎市の柿崎さん)でした。

こうした一行詩を、第1回最優秀賞に輝いた地元のご夫婦や、山陽小野田市長の声を交えてたくさん紹介してくれました。番組の節目ふしめに、「いたわりが、君とぼくを、つなぐ糸。今夜は、山口県山陽小野田市の女と男の一行詩を紹介しています。」が繰り返されたのが、とても嬉しく印象的でした。

対話の日

2月23日(木) 19:00 ~
文化会館